

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

|                    |   |                          |             |
|--------------------|---|--------------------------|-------------|
| 地域課題タイトル<br>(注1)   | No.<br>- (事務局用)                                     | タイトル<br>地域計画の推進につながるアイデア | 自治体名<br>宇部市 |
| アイデア名 (注1)<br>(公開) | Road "TO" Success (TO: Transportation-Optimisation) |                          |             |

(注1) 地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

|            |   |   |  |
|------------|---|---|--|
| チーム名 (公開)  | HKT 7 (Higashi Kiwa support Team 7)             |   |  |
| チーム属性 (公開) | <input checked="" type="checkbox"/> 1. 市民によるチーム | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 学生によるチーム | <input type="checkbox"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム |
| メンバー数 (公開) | 7名  |   |  |
| 代表者情報      | 氏名 (公開)   | 永田 晃平   |  |

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2017\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの論拠、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて**内容そのもの**をわかりやすく示してください。**1 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

**【概要】**・・・人口減少や少子高齢化が進む中で、山口県宇部市は平成 16 年旧楠町と合併し人口が 180,516 人となったが平成 29 年 12 月には 166,969 人と減少を続けている。それに伴い主に公共交通機関の見直しが行われ、住民の移動手段への適切な対応が必要になっている。

現状では、移動手段を持たない高齢者のニーズに完璧に応えられてるとは言えないと考え、私たちは、宇部市内の中心から一番遠い東岐波地区について、その地域の高齢者のことを鑑みて、「移動手段の利便性を最大限に高める」ためのアイデアをまとめることにした。

**【目的】**・・・現状の交通機関から代わる乗合タクシー会社が、地域の高齢者のニーズに応えるためには、**地域密着の適切なルートを見つける**必要がある。その手段として、GPS を搭載したタクシーを手配しデータ(時刻・位置・人数等)を集め**データを分析し、今後の最適経路・最適ダイヤの策定活動に活かす**。

それによって、高齢者の移動手段の利便性を高めるとともにタクシー会社の経常収支向上と補助金削減を狙う。

**【論拠】**・・・東岐波の**高齢化率は 30%**であり、高齢者を含む地域住民の安心な住みよい環境整備が重要。地域住民の足となる宇部市のバスは 74 系統・21 路線あるが、宇部市内中心部から一番離れていることもあり、宇部市中心部と各地域を結ぶ路線が大半である。それゆえ**東岐波地区の生活に密着した路線が少なく、便数も不足している**。(丸尾港線は 5 系統、一日往復 8 便程度)

さらに全体的に減便・廃止等の流れとなっていて、これまでよりも状況が悪化する事が考えられる。

### 【実現までの流れ】

改善した交通路線を、チラシを作り集会所の掲示板上に掲示したり回覧板に挟むなどして、高齢者の方々に認識してもらい利用を促す。地域交通が稼働した際に、データを集め、分析し最適経路・最適ダイヤを割り出す。

このように常にニーズに応えることが出来るよう、まずデータを分析し利用度が高まるように時刻表を作り直すことで、高齢化社会の課題を徐々に改善することができると考えた。

### 東岐波地区の交通の課題

YIC 学校法人 YIC 学園  
YIC ビジネスアート専門学校



出典: Google Map, 東岐波校区地域づくり計画

Copyright © YIC Group. All Rights Reserved.

## (2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）について、それをサポートするデータ（統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの定性データ）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、2 ページ以内でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

### 【アイデアの論拠】

アイデアを考えるにあたって、まず、宇部市の問題点を調べた。調べたところ高齢化が問題になっていることが分かった。平成 2 年の高齢者は全体の 14.6% だったが、平成 26 年は 28.7% と高齢化は進んでいる。さらに、65 歳以上の世帯の 70% 以上が、独居老人、65 歳以上の夫婦だけの家庭になっている。

宇部市の中でも、東岐波は、イベント毎や地域の催しに積極的に参加する人が比較的多い。東岐波区を支援することによって、アクティブに活動した高齢者を中心とした住民に、住みよい環境を提供できると考えた。

東岐波の問題点を改めて考えてみたところ、大きく以下の 3 つの問題点を抽出できた。

#### （1）世帯の状況が把握できない。

若者の転出が増え、宇部市に残る若者が減り、自然と少子化高齢化になる。そのことにより、65 歳以上の老夫婦、独居老人が増え、世帯の状況が把握しにくい。把握が十分ではないため、災害時など、緊急の時に対応が遅くなる。

#### （2）高齢者の地域内交流が少ない。

高齢者が集まる機会は敬老会のみで、尚且つ出席者も少ない。更に、多目的広場や施設（ゲートボールやグラウンドゴルフ）が少なく、適当な土地がないため増やせない。高齢者が外に出たくなるよう居場所づくりや機会が必要。

#### （3）高齢者の移動手段がない。

平成 28 年 10 月に東岐波校区のバス路線の一部が廃止となり、公共交通機関の利便性が低下する。郊外の大型ショッピングセンターの建設により、近くに買い物をする店舗もないという状況が進み、特に自動車を運転しない高齢者を中心として、買い物、医療などの生活に必要なサービスの確保が困難になる。

この 3 つの中で、（1）と（2）は個人情報取り扱いが難しかったり、施設を新たに作ったりするのは、費用も場所も課題がたくさんあり、すぐに解決できる問題ではないと判断した。（3）の、「買い物や通院をしやすくなることを支援する」は実現しやすく、交通手段を確保するという点で支援することによって、高齢者の住みやすい環境をまずは作れると考えた。

### ～アイデアが実現するにあたって～

このアイデアを行うことによって、期待できると考えられる事は、3 つ挙げられる。

#### 1. 地域力の強化

タクシーを使うことにより、タクシー会社と高齢者に身近な良い関係が生まれてくる可能性が出る。またタクシーでスーパーなどに行くことにより、高齢者はスーパーの常連客になり、顔見知りになっていく。病院なども何度も行き来していると自分で道を覚えて歩ける可能性も出る。

#### 2. 安心安全な地域づくり

無理に高齢者が運転しなくなる

→高齢者世帯が多いので、買物など行くのにやはり負担がかかってしまう。高齢者自身に運転してもらう手もあるが、事故する可能性が出てしまう。そこで、タクシーを使うことにより、この不安を解消できる。

### 3. 健康づくり

買い物や通院によって、家を出ることが健康に良い。

→車を使わずに自分の足で歩いたりすることにより、運動することができる。高齢者は家の中にいるイメージが強いので、呼びかけて歩くように促す。

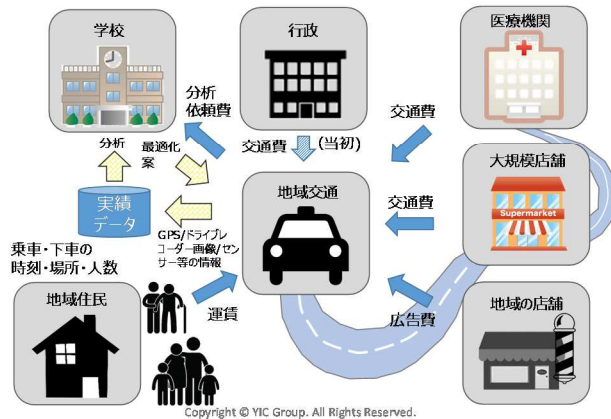
#### 交通・生活支援のビジネスモデル

#### ビジネスモデルの説明

最初に、行政が誘い水として交通費補助をする。

タクシーの乗車データを学校等に分析依頼し、タクシー利用の効率化につなげる。最終的には、行政からの補助金なしで、地域の民間だけで運営できることを目指す。顧客が増えることによって、タクシーもスーパーも Win-Win の関係がなりたつとともに、スーパーや病院に行きやすくなることによって、住民の満足度が向上すると考えられる。

- 行政が「地域交通」への誘い水、学校でデータ分析・経路最適化案で交通黒字化実現
- 医療機関や店舗のシャトル代替し顧客を誘導することで、住民の満足度も向上
- 経路の地域店舗が地域交通車内へ広告を出すことで、地域店舗にも顧客を誘導



Copyright © YIC Group. All Rights Reserved.

7

宇部市の担当者の方とのミーティングを踏まえ、まずは、地域住民が気軽に買い物や病院に行けるようにしたい、高齢者の負担を減らしたいと考えて、このアイデアを考えた。

#### 参考 URL

「東岐波校区地域づくり計画」

<http://www.city.ube.yamaguchi.jp/kurashi/shiminjinken/community/tiikikeikaku/documents/01higashikiwa.pdf>

「宇部市の景観の特性と課題」

<http://www.city.ube.yamaguchi.jp/machizukuri/toshikeikaku/keikan/documents/1-4.pdf>

「宇部市高齢者福祉計画」

[http://www.city.ube.yamaguchi.jp/kenkou/koureifukushi/keikaku/documents/hukusikeikaku\\_soan\\_2.pdf](http://www.city.ube.yamaguchi.jp/kenkou/koureifukushi/keikaku/documents/hukusikeikaku_soan_2.pdf)

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大きな規模とその現実的な調達方法（制約がある場合にはその解決策を含む）、アイデアの**実現にいたるプロセスとマイルストーン**等、アイデア実現までの大きな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

#### アイデアを実現する主体（あるべき姿）

タクシー会社や移動販売を実施する小売業、スーパーなどが、宇部市の為に進んで協力してくれる地域の民間企業。最初は宇部市が主導するが、民間だけでもPDCAのサイクルを回せることがポイント

#### 現状の課題（リソース）

##### ・タクシー会社

乗降客が少なければペイラインに乗らない。→ 市が補助金を7割強出さざるを得ない。

##### ・移動販売

1回、1万円程度の売上有るなら、協力可能 → 現状ではそれ以上の売上が困難

#### 原因

- ・タクシー会社、移動販売の会社が、売上・コストのバランスを見て積極的になれない。
- ・過疎地域での出店、コミュニティ交通に追いついては、お金が掛かる。儲からないと思っている。
- ・新しいビジネスを始めるのは、リスクが高いため、確実な市場を狙いたい。
- ・東岐波地域が広くて、カバーする領域を特定できない。

#### 【実現までの流れ】

ステップ0(2017/11~)・・・宇部市とのコンタクトと説明を受けた活動

COGを機会として、宇部市から全体の構想説明、東岐波地区の課題説明をして頂いた。これをもとに、地域により密着したリアリティの高いアイデアを検討できた。

ステップ1(2018/11~)・・・前準備

高齢者の方は、TVや新聞のチラシという手段が浸透しているので、チラシなどを配ってコミュニティバス（乗合タクシー）の運行が始まることを知らせる。これと共に後の経路の決定の一助となるアンケート取得の仕方等を実現したい。

ステップ2(2018/4~)・・・コミュニティバス（乗合タクシー）の運行開始

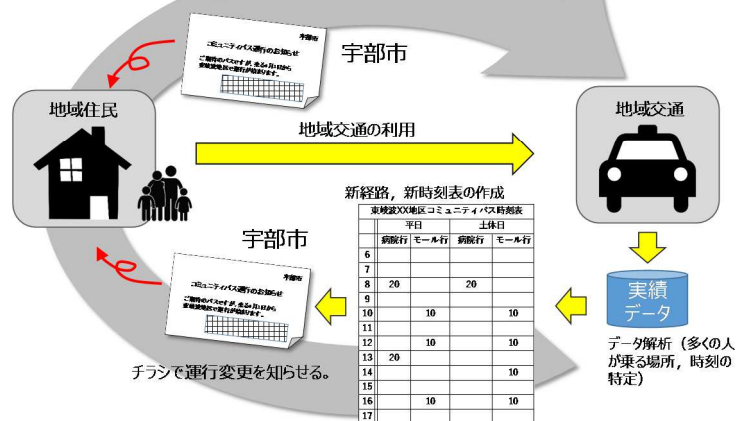
地域内で4ルートの運行が始まる。（停留所（タクシーの乗降場所は事前に決めてある）

### 実現までの流れ

YIC 学校法人 YIC 学園  
YIC ビジネスアート専門学校

#### ●改善のループによって地域サービスの拡大

チラシでコミュニティバス（乗り合いタクシー）の運行開始を知らせる



市場で安価となったドライブレコーダー（位置、時刻、乗車人数の確認可能なもの）を搭載したタクシーを運行する。このことで日々の運行情報（乗車人数、乗車時間、下車場所）をドライブレコーダー(SDカード)から蓄積できる。

### ステップ 2.5(2018/10～) … データの解析

ステップ 2 で集めた運行情報をもとに、店舗の特売日、天候、地域イベントなどを合わせて、どのような時に乗車されるのか、どこで下車されるのかを地域の学校を使って解析する。このことで、新しい経路とダイヤの改善策を立案する。さらに、改善案のシミュレーションを行い、利便性、効率性、収益性を確認することで、地域交通の利便性、収益性を高める。

### ステップ 3(2019/4～) … 新経路での運行開始と地域内告知

変更による混乱を最小限にするために、東岐波の一部に限定して、新経路の運行を開始。新しく決まった経路をチラシで知らせる。チラシの内容（時刻表、臨時運行日、お得なクーポンなど）には工夫を加える。

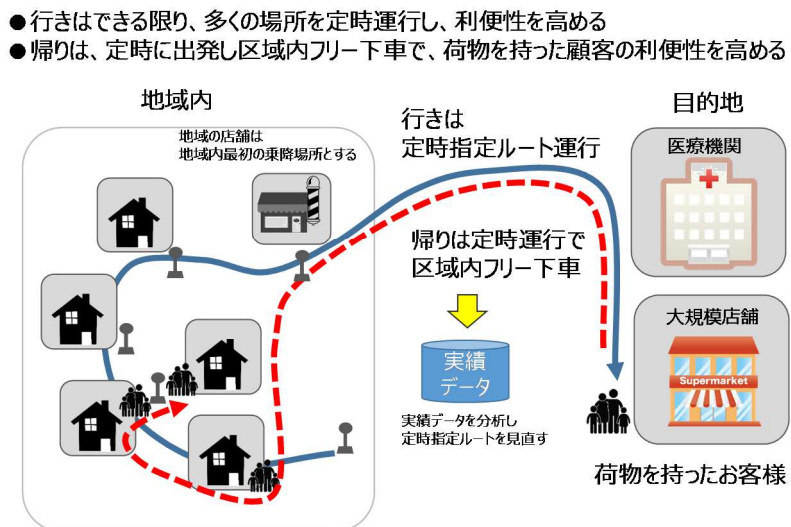
今回の変更のポイント

としては、地域内から目的地に行く往路では停車場を定時運行して、利便性を向上させると共に、相乗りによる住民同士のコミュニケーション作りに関与させる。

買い物後の荷物を持った復路は、区域内でフリー下車できるようにし、歩く距離を最小限にすることによって地域住民サービス向上、満足度向上を狙う。

## 乗合タクシーの運行ルート

YIC 学校法人 YIC 学園  
YIC ビジネスアート専門学校



Copyright © YIC Group. All Rights Reserved.

10

### ステップ 4(2019/6～) … 移動販売の試行のためのアンケート、実証実験

従来の施策で満足できているか、回ってほしい場所、移動販売が必要かどうかを訪ねる。さらに利便性の高い移動販売を導入する。また各家庭にネットワークをひいて、ニーズがあったときに移動販売ができるような仕掛けを実験する。

### ステップ 5(2020/1～) … タクシー会社の自立

ステップ 2 からステップ 3 を繰り返す、地域の利便性を高めることに寄って利用者が増え、宇部市の支援なしでタクシー会社などがやっていけるぐらいのレベルに高める。